

会議結果（要旨）

会議名	平成28年度 第1回 音更町地域公共交通活性化協議会分科会
開催日時	平成28年12月26日（月） 午後1時30分から午後3時30分
開催場所	音更町役場4階 401・402会議室
出席者	別紙出席者名簿のとおり
議題・諮問内容	1 開会、あいさつ 2 議事 (1) 計画策定調査の結果について (2) 網形成計画策定の方向性等について (3) その他 3 閉会
会議資料	別紙のとおり
会議結果	下記のとおり
出された 主な意見等	<p>■議事（1）計画策定調査の結果について</p> <p>会 長：調査の結果をまとめると、1割に満たない町民がバスの利用者であって、路線バスは朝と夕方の通勤、通学が主な利用、昼間は買い物と通院で利用する女性の高齢者が多い。買い物と病院については木野市街が多く、通院に関しては木野市街の他に帯広の厚生病院に行く人が多い。コミバスの利用者は女性がほとんどで通院と買物がメイン。農村部は公共交通がない状況で、中心市街地と比較すると外出回数が少ない。それに対して公共交通をこれからどうしていくかということになるかと思う。今バスを使っている人の足の確保の観点と、利用者を増やすための二つの観点（①本当はバスを使いたいが、やむを得ず自家用車を使わざるを得ない人たちの掘り起こし②公共交通をみんなで支えるために普段元気で車を使っている人たちもバスを積極的に使いましょうという動き）、これら三つの観点でこれからバスをどう考えていこうかということになるかなと思う。</p> <p>委 員：免許証を返上しなければならない年齢の人が増えてきた時に公共交通をどう使うかということが問題だと思う。コミバスも1人、2人乗るくらいのバス停の利用だとすれば、バス停を設けず、路線上で手を挙げたら乗れるような路線を作ったらよいのでは。</p> <p>会 長：音更町のコミバスは全国的に見ると先進事例としてとらえているが、利用者は今でも増えているのか？</p> <p>事務局：ここ2、3年は3万2、3千人で推移している。</p> <p>会 長：循環バスを走らせる時は1周40分が限度だろうともいわれている。これについては何か分析の結果はないか？</p> <p>事業者：幕別で循環バスの実験をした時に、最初に45分で走らせたところ、苦情がかなり来たが、30分にして不満が出なくなった。全国的には45分くらいかもしれないが、管内では30くらいなのではないかと考えている。</p> <p>委 員：自分の住んでいるところからコミバスを利用して役場まで来る場合、1時間かかる。高齢者で免許を返納した人に対する制度は検討できないか。</p> <p>委 員：農村部でも高齢者の独居世帯が増えてきているが、農村部では免許、車がなければ生活できないのが実態。事前に予約をする形の乗り合いタクシーなどを考えてはどうか。</p>

事業者：アンケート結果で、農村部の回答者632人の40%、約250人が、新たな公共交通があった場合に利用したいと回答している。一方で、ほとんどの人は免許、車を持っている中で、どういう時に新しい公共交通を使うことが考えられるのか？

委員：できることなら運転はしなくないが、運転せざるを得ない。免許を返したいが、まだ農業をやっているのでできるだけ免許は持っていたい、そういう人たちの回答ではないか。

委員：例えば、近所の人を2、3人乗せて買い物に行くというようなことが認められている地域は全国であるのか。

会長：バス路線も走っていない、タクシー会社もないといった、地域に公共交通がないと定義される地域では、有償ボランティアという制度を活用している例もある。

委員：最近、高齢者の事故が多いが、免許をやめたくても、交通手段がなければ、どうにもならないということで、やめない人が相当いると思う。

委員：公共交通を積極的に使おうという町民の意識を変える必要もあるのでは。

会長：公共交通を利用しましょうと多くの自治体が住民に対して言うが、ある程度利用できるくらいのサービスレベルを確保したうえでやらないと、誰も使う人はいないと思っていて、今日の意見交換でそれが浮き彫りになってきたのではないかと思う。

■議事（2）網形成計画策定の方向性等について

会長：コミバス利用者で高速道路を挟んで北と南を行き来しているのは、全体で見るとごく少数。コミバス導入当初の、地域をつなぐというコンセプトをこの先も続けられるのかということと、利便性を考慮した時に、高速道路の南北は違う形で考えてもよいのではというのは、形成計画の中で議論していくことになると思う。各地域を張り巡らせて一見充実しているようになっているが、利用者にとっては利便性が悪いということが見えてきた。様々なデータをもとに、どういう路線を組めばいいのか、音更地区と木野地区はコミバスではなく路線バスに任せてもいいのではといった議論も出てくると思う。農村地域では、乗り合いタクシーを導入してはという意見も出されたが、公共交通を張り巡らせると運行経費がかかることから、もしかしたらタクシーチケットを配った方が効率的ではないかということもある。需要と供給の関係、運行経費の関係も検討していかなければならないと思う。

委員：同じ町内会で、近所の方が善意で送ってあげた時に接触事故が起きたことがある。幸い怪我はなかったが、何か重大な事故が発生した場合、補償など非常に面倒な問題になるということで、役員会でも問題になったことがある。

会長：音更でも隣近所で支え合っているというのが多分にあるということ認識したうえで、どうしていくかを議論できればと思う。

■議事（3）その他

※事務局より、次回の分科会を1月下旬に開催予定である旨説明。